

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみグループホーム日陽 2階		
所在地	名古屋市中区六軒家1022番地		
自己評価作成日	2020年11月9日	評価結果市町村受理日	令和3年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2371100666-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和2年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設のまわりは田んぼや畑が広がる環境が変わらずあり、近所の散歩、玄関先や屋上での外気浴を楽しみながら、季節を感じ、快適に暮らすことを目標としている。
 地域とのかかわりも定着し、地域の方々に施設の存在を認識していただけるようになってきた。今年は新型コロナウイルスの影響で地域のサロンや地域行事に参加できなかったため、施設だよりを通して施設の活動や行事を地域の方々に知っていただけるよう回覧板を活用し地域との関係が断たれないよう努めている。
 心身ともに安心して暮らしていただけるよう内科、歯科、皮膚科、精神科、薬局に定期的に施設に足を運んでいただき、必要な診療を受けられるよう態勢を整えている。また、耳鼻科、眼科等の他科とも連携を図り必要に応じて受診して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	コロナでいろいろ制約があるが理念に近づくように努めている。理念を頭に入れて、日々介護にあたるように努めている。という意見がある一方で、理念があるのはわかっているがあまり気にしていないという意見もある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域とのつながりを持っているが今年はコロナ禍で中止している。ゴミ出しの時に挨拶をする程度。今までは行事に地域の方を招待したり、サロンに出向いて交流を図っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で困難である。散歩のときは地域の方に積極的に挨拶をしたり、行事を手伝ってもらったりして、認知症の人を理解してもらえる機会を作っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナで推進会議は実施されていない。実施されていれば、全体会議で報告がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者・ケアマネージャーが協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内で研修を行い、ということが拘束に当たるかを学んでいる。拘束しないのが原則であるが危険がある場合、会議で話し合い、家族の了承をもらう。スピーチロックは頻繁にみられる。玄関の施錠は拘束とは思わない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内で研修を行っている。虐待のビデオを見て勉強してということが虐待になるか把握し、防止に努めている。また、外部研修を受けたスタッフは、全体会議で報告し、研修内容を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今年学習と研修はされていない。 内部研修・外部研修で学ぶ機会があった。 後見人の付いている利用者は病院の受診や外出に付き添ってもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族には十分に説明を行い、不安や疑問が生じた場合も納得していただけるよう説明をしている。主に管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会議を開き、意見や要望を聞いて運営に反映させているが、今期はコロナのため会議が開かれていない。家族が面会に来られた時に話を聞いたり、利用者からは希望を聞き実現できるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議の場で話し合っている。 年に1回面談を設けて意見や要望を聞いて反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の希望を聞いて資格の取得を援助したり、受けたい講習を受けさせてくれるなど要望を聞いてくれる。給与水準は低い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受ける機会を設け、資格を取ることを推奨している。コロナ禍で研修を受けることが難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナの影響で研修に参加することが難しい。オンライン研修であったため、交流する機会がなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	さりげない会話の中から話を聞き出し、安心して暮らしていける関係づくりに努めている。また、話し方や対応に気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入段階でご家族の話を傾聴し、不安がないような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護職員は直接家族とかかわらないが アセスメントを聞いて支援の方法を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のできることはなるべくやっていただき、役割を持って、共同生活の場であることを認識してもらえるようにしている。 掃除や食器拭きを手伝ってもらうぐらいで、共同生活者とはなかなか位置付けられていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で面会が制限されている。日ごろの生活や行事の様子を新聞を作って伝えたり、テレビ電話で話していただき、つながりを持ってもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時々お友達が来られるが、今期はコロナで面会を断っている。 スタッフから、利用者が今まで住んでいた場所や昔の職業や好きだったことを話しかけたりして、思い出してもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、トラブルの内容支援している。気が合う利用者同士ならんでもらえるようテーブルに配置を考えたりレクや体操もみんなで楽しめるように声を掛け、関わり合いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを取ることで思いや希望を聞き出せるよう努めている。利用者の担当者がQOL向上の目標を作り、提案し、実践努力している。会議で意見交換し、話し合い、利用者の意に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを見たりケアマネから情報をもらって把握に努めている。とても情報が少ない利用者もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録を読み、出勤していない日のことも把握できるように努めている。会議で意見交換をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	会議で意見交換をしている。会議で現状の課題やケアの方法の意見を出し合い、ケアマネや代表者から家族に相談してもらい、実行につなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフは日々の様子や気づきを介護記録に記入し、情報を共有し、ミーティングで利用者一人一人問題点などを取り上げて改善方法を話し合い、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の状況やニーズを組み取れるよう利用者との関係に努め、そのニーズに応えられるよう意見を出し合い、利用者一人一人に合った支援やサービスができるよう努めている。 デイサービスを開始する予定だったがコロナ禍でできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方に歌や踊りなどに来てもらったり地域の行事(豆まき、お祭り、運動会、ゴミ拾い)に参加させてもらっていたが、今季はコロナの影響でできない。菜園で野菜を収穫したり、近所を散歩することで季節を感じてもらえるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科・歯科・皮膚科・精神科は定期的に往診に来てもらい、特に内科医とは急変時に連絡が取れるようにしてある。本人の希望や必要があれば病院に受診できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内看護師に相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談には努めているが、関係づくりは希薄。介護スタッフは直接は病院関係者とかわらないが入院に至るまでの症状を記録し、情報を渡せるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの利用者の方針の共有に努めている。ケアマネや代表者が終末期について話し合ったことを職員と共有し、対応の仕方を相談している。できるだけ本人と家族の意に沿えるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的を受講している。というスタッフがいる一方で、定期的を受講していないから不安があるというスタッフもいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的避難訓練を利用者と共に行い、避難方法や経路を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人一人の性格を把握し、その人にあつた声掛けをするように努めている。また、利用者の気持ちを尊重する声掛け、対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	雑談、声掛けを大切にし、日常生活での会話の中で本人の想いをくみ取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体操や歩行訓練など全体でやることはあるが、その他の時間はリビングでゆったり過ごしてもらい、テレビ、雑誌、新聞など見てもらっている。職員のペースになってしまっているのは事実。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に1回訪問理美容に来てもらっている。日常的に爪切りや髪ブラッシング等の支援は行っているがおしゃれの支援まではできていない。衣類は自分の好みで選んでもらっている。雑誌などを一緒に読み、利用者の好みのファッションを探よう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者一人一人の食事の好みや咀嚼に合わせて味付けや盛り付け方を考えている。台拭き、食器拭きなどやれる人には役割を決めてやってもらっている。好き嫌いが多い利用者にはスタッフがいかにか食べてもらえるか工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量は毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアは行っているが一人一人に合った口腔ケアができていない。必要な利用者には仕上げ磨きをしている。義歯の手入れや口腔ケアが必要な利用者には毎週歯科医が往診に来てケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々のリズムをつかみトイレへの声掛けをしたりお連れしたりしている。水分摂取量も考えている。夜間は必要な利用者にはポータブルトイレを置いて、自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	廊下での体操や歩行など工夫している。水分摂取量に注意したり乳製品を摂ってもらっている。最終的には薬に頼っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴を億劫に思う利用者様には時間を伝え、急がせないようにしている。1日おきに入浴してもらっているが入浴時刻は夜を希望しても入れない。一人一人のADLに合わせてプライバシーを尊重し見守りや介助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中はリビングで過ごしてもらい、日の光を浴びたり生活のリズムを身につけて夜は熟睡できるように支援している。体調に応じ午睡の時間を設けている。夜間ぐっすり眠れない利用者には就寝時刻や薬を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診の記録や薬の説明を読んで理解するように努めているが十分ではない。薬の種類が多く、効能まで把握しきれない。服薬間違いには注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の好きな娯楽を把握し、一緒に楽しめる時間を取れるよう努めている。今期はコロナの影響で外出が少なく楽しみが少なかった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今期はコロナの影響で外出ができなかったが、本人の希望を把握し、食事や買い物、景色を見に行ったりする機会を作るよう支援している。散歩に行ったり、屋上で外気浴はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	今期はコロナで買い物に行けていないが、希望のものがあれば施設で買ってきて提供している。 一部の利用者は手元に少額持っているが外出して使えることがない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持っている利用者は居室内で自由に電話をしてもらっている。希望があれば手紙や電話の支援を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日掃除をしている。施設内には使われないものがゴチャゴチャと置かれている。季節を感じられるような飾りつけや写真を貼ったりして工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに利用者の席があり、そこで生活していただいている。テレビを囲むようにしてソファ席があり自由に座ってテレビを見たり、談話している。リビング席は気の合った利用者同士で並べるよう配席している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れたものを持ってきていただくよう案内しエイル。それぞれの居室に使い慣れた家具を置いたり、好みの写真や絵や花、人形を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	なるべく床に物を置かないようにし、整理整頓を心掛けている。男性用トイレ、女性用トイレなど表札をつけたり明るくして手すりの位置を考え安全に移動できるように工夫している。		